

## 令和4年度県立多賀高等学校 自己評価表

目指す学校像	(1) 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 (2) 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 (3) 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「シチズンシップ」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校		
昨年度の成果○と課題△	重点項目	重点目標	達成状況
○ 四大進学者のうち「一般」受検者率 (17.1%→53.6%) △ 国公立大「一般」合格者(1→0人) ○ 技能検定準2級以上合格者数増加 英検59→106、数検69→42、漢検45→40	(1)新学習指導要領の学習評価に即した授業体制による学力の向上、並びに主体的な学習体制の構築	① ICTを活用した授業を効果的に実践し、主体的に学ぶ姿勢を育み、思考力・判断力・表現力を育む授業の深化を図るとともに、学習課題を積極的に提供し、家庭学習習慣を定着させる ② 自己分析や大学・職業研究、課外や模試等をより体系的に実施し、希望進路の着実な実現につなげる	B
○ HRへの帰属意識が向上→自己有用感の向上 ○ 規範意識の向上→生徒指導事案の減少	(2)自治的能力と自律心の育成	③ HRや委員会における企画立案の取組等を積極的に設け、役割意識や責任感、能動的な規範意識を醸成する	B
○ 学校行事等で主体的に取り組み、自己達成感を得られた ○ 家庭との連携を図り、不登校や登校渋りの生徒の減少。SCの活用増 △ 家庭学習時間の増加。1日の平均家庭学習時間90分以上が約40%	(3)切磋琢磨の奨励と心身のケア	④ 協働して取り組む姿勢を培い、自己有用感を高め、目標実現に向けて努力する態度を養うよう指導する ⑤ 保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期に対応する ⑥ 希望進路実現に備え、学力の向上を目指し、家庭学習時間の確保ができるよう指導する ⑦ 適性に合った進路実現に向けて、キャリアパスポートを利用した計画的なキャリア教育を実施する	A
△ 超過勤務時間月80時間以上で面談を実施した人数延べ8人→8人	(4)働き方改革の実施	⑧ 学校閉庁日の設定等により勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を進める。月ごとの超過勤務時間を45時間以内、年間360時間以内となるよう、休暇の取得促進や勤務の割り振り等適正に実施する	C

※部活動は全20部のうち県大会等があるのは20部

\* 評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

\* 評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

三つの方針		具体的目標	評価		次年度への課題
スクールの三つの方針	「育成を目指す資質能力に関する方針」 グラデュエーションポリシー	よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培い、社会に貢献できる人材を育成G2G21:L28	B	B	・社会に開かれた教育課程への一層の改善
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 カリキュラムポリシー	新学習指導要領と大学入学共通テストに対応できる学習・進路体制の構築と多様な進路ニーズに対応するカリキュラム編成の実施	B		・目指す学力の着実な習得
	「入学者の受入れに関する方針」 アドミッションポリシー	学校づくりの主役として日々努力し、自己有用感・自己肯定感を高めることができる生徒 学習意欲を持ち、学校教育活動全体をを通し、スポーツ・文化・芸術を体感し楽しもうとする生徒	B		・多様なニーズに沿った教育課程の整備と進路指導の充実
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への課題
教務	1 教育課程の着実な実施	①各授業時間の確保を徹底(授業交換の徹底、考査間の各授業実施率の均等化、授業時間確保のための行事再検討の実施) ②本校グランドデザインと教育課程実施におけるシラバスならびに各教科評価システムの顕在化	B	B	・指導と評価の一体化に関する研修および教科内の点検機会の充実。【継続】 ・指導と評価の一体化に関するテンプレートの一元化を図る。【新規】
	2 新学習指導要領実施に伴う研究	①新学習指導要領に基づく教育課程の検討継続と各教科における指導方法及び評価システム構築の研修機会の増加 0回→2回(教育課程検討委員会) ②授業改善や指導と評価の一体化に関する研修会の実施 0回→2回(授業力向上委員会) ③ICT(タブレット端末)を活用した授業についての研修機会の増加 6回→10回(GIGAスクール構想推進委員会)	C		・ICT研修を定期考査期間以外でも実施し、利用促進を図る。【継続】 ・ICT機器の管理運営マニュアル等の作成。【継続】
	3 情報管理の徹底と効率化	①考査問題・答案や成績を含む個人情報の管理を徹底と情報管理手順の確実な伝達(考査問題・答案の保管、素点・成績等の取扱いについて毎回注意喚起) ②考査の申し合わせ内容および再考査に関わる内容についての検討	B		・指導要録点検のシステム化。【継続】 ・教務部内各仕事内容のマニュアル作成。【新規】
		①校務支援システム変更に伴う運用マニュアルの改編 ②諸帳簿の確実な運用記入・点検体制の構築	B		
教図書係	4 図書館利用の促進	①図書利用環境の整備(蔵書点検および廃棄も実施) ②図書委員会の活性化(生徒の動きが目に見える活動の実施)	B	B	・LHRや総探における図書館利用の促進を図る。【継続】
		利用者を増やす具体的方策の検討	C		
教渉外係	5 コロナ渦におけるPTA活動の運営	Withコロナにおける各PTA行事内容の検討および実施	B	B	・PTA総会への保護者参加を増やすための方策を考える。【新規】
	6 各種活動ごとの内容のブラッシュアップ	評議員決定方法、各係・各学年PTAの活動内容および実施時期の再検討	C		
生徒指導	1 問題行動の未然防止	生徒との信頼関係の構築に重点を置いた、各種生活指導の徹底 下校指導の回数(7回→6回)の再考	B	B	・内規の見直しの継続 ・要支援生徒向けの組織的支援と教員研修の充実
	2 要支援生徒への早期対応	要支援生徒向けの教員研修の充実	B		
	3 生徒や社会の実態に応じたルールを研究	生活指導に関する学校内規の見直しを検討	B		

\*評価基準：A(十分できている), B(達成できている), C(概ね達成できている), D(不十分である), E(できていない)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題
進路指導	1 自学自習習慣の確立	①週末課題・小テストの奨励 ②Classiなどの活用による家庭学習記録 ③家庭学習時間入力を徹底し、平日1時間以上の家庭学習生徒70%以上	B	B ・新教育課程に即した、3カ年を見据えた進路指導の系統だてた指導体制作りや内規改訂 ・進路行事の精選 ・一般選抜者への指導体制の構築
	2 大学一般受験に対応する学力の錬成	長期休業中の課外指導、模擬試験の活用(解説・解き直し含む)により、国公立大学10名以上合格・一般選抜チャレンジ40名以上	A	
	3 一人一人の進路希望の実現	面談3回実施、小論文指導等の実施により、進路希望実現率100%を目指す	B	
特別活動	1 生徒自ら企画立案する場の確保	HR活動で5回・委員会活動・学校行事で各2回以上、企画立案・運営の場を設定	A	B ・県の部活動運営方針に則った本校の部活動を推進しつつ、活性化を図る【継続】 ・コロナ感染予防に対応した安全な学校行事の企画・運営【継続】
	2 特別活動精選の検証	①部活動運営方針等、部活動の在り方を検証し精選 ②統廃合した生徒会専門委員会の検証	A	
	3 生徒の主體的な活動としての部活動指導体制の研究	①多様なニーズの生徒を受け入れて運営する部活動の在り方について研究 ②適切な休養を含め、学校全体で部活動を継続できる指導体制について研究	B	
	4 ICTを活用した行事の運営	①行事等でICTを効果的に活用 ②オンラインを活用した学校行事の運営	C	
保健厚生	1 学校環境の美化・整備	ペットボトル、燃えるゴミ、弁当ゴミの分別を徹底(保健厚生部で毎月点検・確認を実施)	B	B ・ゴミ分別指導【継続】 ・コロナ感染予防対策は今後も【継続】 ・歯科受診向上の指導【継続】
	2 安全衛生管理の充実	①新型コロナウイルス感染症の予防及び対策 ②災害備蓄品の管理表作成と整備	B	
	3 生徒の健康の保持増進	学校での歯科健診未受診者に対する通院受診の指導を養護教諭が面談で実施【指標】通院受診率5割	B	
第一学年	1 学習習慣の確立および基礎学力の養成	①国・数・英を中心にした課題や小テストの定期的・計画的な実施。(生徒の理解度7割以上)。 ②Classi 動画の計画的配信や課題テストの定期的実施などにより、家庭学習を習慣化(Classi実施率9割以上) ③基礎学力を養い、1年後半における対外的な成績向上を目指す(全国偏差値50以上7月<11月<1月)。	B	B ・平常日の家庭学習習慣を確立するための手立て。 ・成績上位層の生徒や、やる気のある生徒をさらに伸ばす工夫 ・3年間を見通した具体的な進路指導計画 ・長期休業直後の計画的な生徒面談週間の実施 ・特別な配慮が必要と思われる生徒への支援とその研修
	2 一般受験による大学進学などの進路意識の醸成	①進路に関する調べ学習や社会人インタビュー・大学模擬授業計画実施し、進路意識の高揚(Classi ポートフォリオに記入) ②類型選択のためのガイダンスを実施するとともに面談を行い、個の適正・能力に合わせた進路選択のための支援(Classi での振り返りやアンケートを計画的に実施)	B	
	3 望ましい集団活動の実践	①学校行事やホームルーム活動において、自発的・自律的な運営 ②年2回以上の生徒面談を実施し生徒理解に努め、全ての生徒が心身ともに健康的な生活実現	C	

\*評価基準：A (十分できている), B (達成できている), C (概ね達成できている), D (不十分である), E (できていない)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への課題
第二学年	1 学力の充実	①授業、課題テスト、小テスト等を通じ、主要3教科(英数国)における家庭学習を促し、学力の充実および向上をはかる(全クラス) ②年間計画に基づき、スタディサプリを通じた学習課題(5教科)および長期休業中の課外を通じ、中上位層の成績向上をはかる(5・6組および希望者)	B	B	・Classiの効果的な活用の継続 ・最終学年としての自覚を持たせ、希望進路実現のために、先を見通して自分で動けるよう意識を高め適切な支援をする ・自主性を高め、自己有用感が高まるよう活躍の場を与えながら、よりよい人間関係づくりが出来るようホームルーム活動を支援
	2 自らの進路に関する理解	①Classiの学習記録や生徒面談を通じて各生徒の進路に関する目標や悩みなどを理解し、適性に合わせた進路目標を見出す援助をする(ICTの活用) ②様々な場面で積極的にICTを活用し、進路行事や模擬試験結果等も効果的に利用し、適切な進路指導を行う	B		
	3 学校生活および集団活動を通じた望ましい集団の形成	①学校行事やホームルーム活動において、生徒が主体的に運営・参加することにより自己有用感を高め、より良い人間関係を形成できるための支援をする ②日頃の学習・生活指導や面談等を通じて生徒理解に努め、すべての生徒が心身ともに健康な学校生活の実現を目指す	B		
第三学年	1 学力の向上	授業内容の充実、家庭学習課題への取り組みの向上、課外授業の実施などを通じた、全ての生徒の学力の充実・向上ならびに入試における学科試験に対応できる学力の獲得 (数値目標:教科シラバスの計画実施、ベネッセ全国模試における英数国総合偏差値平均45以上(全体)、偏差値50以上の生徒20名)	B	B	・偏50↑は、英数国で2名、国20英18数9。学力バランスが今後の課題。共テは各教科の授業が充実し数・得点とも向上 ・コロナ禍での欠席者増とその学習支援の在り方
	2 進路目標の実現	面談の複数回実施および普段の学習・生活指導の充実による、生徒の適性・能力に応じた進路目標の達成(数値目標:希望者の進路決定率100%、国公立大学合格者10名以上)	A		
	3 人間関係の育成	学習活動や学校行事などを通じた、自分だけでなく他者の気持ちを考えることのできる「思いやり」の心や、協調性・責任感をもった公正な態度の育成 (数値目標:長期欠席者数および欠席日数の減少と全員の卒業)	C		
国語	1 語彙・古典文法等の基礎学力の定着	知識・技能の確認小テスト実施と授業内での事前・事後の啓発指導 小テスト正解率60%、定期考査での振り返り問題正解率70%	B	C	・指導と評価の一体化を測る指標の工夫改善 ・メディアを活用した表現力向上に資する授業の工夫 ・思考力の基盤となる語彙力向上を目指した指導と啓発
	2 思考力・判断力・表現力の育成	学習指導要領に準拠した言語活動の実施を目的とした各種メディア活用 新指導要領シラバスの国語科全体での検証(前期1回)と実施状況分析(後期1回)	B		
	3 漢字検定受験者の合格率向上	学習教材の提供および受験後の分析情報提供による意欲喚起 上位資格となる準2級以上の受験者の合格率70%以上	D		
地歴・公民	1 基礎学力の定着	授業の工夫、ワークの提出、小テストなどを実施する 【指標】模擬試験偏差値50以上 一般クラス1人以上、特進クラス10人以上	B	B	・AL型授業、記述式問題など新学習指導要領への対応について研究 【継続】 ・ICT機器の活用法を模索しながら、より多くの生徒の基礎学力の定着を図る
	2 ICTを取り入れた授業の実施	全ての科目でICT機器を活用した授業展開を行う	A		
	3 新学習指導要領への対応 ～特に歴史・地理総合、公共	①AL型授業、記述式問題を研究 ②歴史・地理総合、公共(主権者・消費者教育、道徳・特別活動との連携)を研究	B		

\*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への課題
数学	1 ICT授業の実施	①電子黒板を利用した授業の実施【指標】数学科教員全員の実施 ②生徒用タブレット等を利用した授業の実施【指標】数学科教員全員の実施	B	B	・新学習指導要領に即した指導と評価 ・ICTを利用した授業実践と研修 ・数検などの課外の検討
	2 学習習慣の定着	①Classiによる動画配信や定期考査前の課題提出【指標】提出率100% ②長期休業中の課外を実施【指標】参加率50%	B		
	3 数学検定の合格率の増加	①受験者に対する課外を実施【指標】合格者50名以上	B		
理科	1 ICTを取り入れた授業の実施	①教科におけるICT研修及び、教材・技術の共有 ②ICTを活用した授業を8科目全てで実施	B	B	・教科内研修を充実させ、授業や実験の教材共有を図る ・授業展開や評価方法を研究する
	2 体験的学習の推進	①生徒及び演習実験を各科目3回以上実施 ②実験が実施できない場合は動画映像資料で代用	B		
	3 思考力・判断力・表現力の育成	①ペアワーク、グループワークを取り入れた授業を実施 ②学習成果を発表する場を、学期に1回以上設ける	B		
保健体育	1 規律順守の徹底	始業時の整列や挨拶、準備体操、体力づくりなどを主体的に実践させ、指導・評価・助言を実施	A	B	・新学習指導要領とコロナに対応した年間指導計画作成と、評価の進め方の工夫 ・ICTを活用した保健授業の実践
	2 基礎体力の向上	運動学習場面60%を目標に、運動量の確保	B		
	3 わかる保健授業の展開	授業力向上のための科内研究を月に1度実施	B		
教科 芸術	1 創作の喜びを実感させる授業展開	生徒の実態に即し、創作の楽しさを味わうことのできる教材の選択・精選	B	B	・特別棟への電子黒板の設置【継続】
	2 言語活動を取り入れた鑑賞活動の充実	互いの作品を鑑賞したり、制作における表現を記録・発表させることで対話的で深い学びの充実を図る	B		
	3 ICT授業の実施	電子黒板等を使用した授業の研修・実施	D		

\*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題
外国語	1 大学入試に対応できる「読む力」の育成	授業および家庭学習課題において英文を読み、定期試験及び確認テストを行う (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期試験および確認テストで[B]概ね60%以上の理解度	B	4技能5領域のうち「読むこと」「聞くこと」の理解は概ね良好であった。「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」 「書くこと」については、各学年とも複数回のパフォーマンステストを行い、評価をしている。今後も教科会で指導方針を検討し、共通理解を図る ・英検は受験者が減少 ・英検受験を奨励 合格者数(R4第2回まで) ①2級0名、準2級3名 ②2級1名、準2級48名 ③2級25名、準2級89名
	2 大学入試に対応できる「聴く力」の育成	授業および家庭学習課題において英語を聴き、定期試験および確認テストを行う (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期試験および確認テストで[B]概ね60%以上の理解度	B	
	3 英語による思考力および表現力の育成	授業において「書く」・「発表・やりとり」などの活動を行い、提出作品やパフォーマンステストにより評価する 【指標】[B評価]提出作品やパフォーマンステストにおいて、到達目標を全ての生徒が達成	B	
	4 英検受験の奨励と資格取得者増加	「受験の奨励」を鑑み、(準)会場を設定して受験を奨励するとともに、1次試験合格者に対しては2次試験対策面接を実施する 【指標】 1学年:準2級取得者20名以上(既取得者含む) 2学年:準2級取得者80名以上(既取得者含む)、2級合格者10名以上 3学年:準2級合格者100名以上(既取得者含む)、2級合格者20名以上(既取得者含む)	B	
家庭	1 家庭生活を充実向上するために必要な知識・技術・態度の育成	消費者として自立して生きていくために必要な知識と技術と態度の育成(探究活動を通して) 【指標】①消費者としての意識と知識が向上したと答える生徒80%以上 ②課題レポート発表全員、提出率100%③ICTを活用した効果的な指導方法の研究	B	ICTを活用した指導方法についてさらに研修を進める。指導と評価の一体化のための授業研究、特に課題解決型の授業の研究を進め、評価の仕方についても研究を進める。
	2 自己の家庭生活の課題を設定し解決方法を考え計画を立てて実践する。	ホームプロジェクトを実践し、校内で発表会を行う 【指標】ホームプロジェクトの全員提出・発表	B	
	3 実験・実習の効果的な実施	ICTを効果的に活用し、実習を効率よく行い、知識・技術を効果的に身に着ける 【指標】①授業の5/10以上に実験・実習・探究の要素を取り入れる ②実技分野で実践力が向上したと答える生徒80%以上	A	
情報	1 情報化社会で必要となる態度・知識・技能の定着	新テスト対応を念頭に知識、技能の定着を図るAL型授業の拡充研究 【指標】「情報化社会を生き抜く知識・態度が身についた」者90%以上	B	・新教育課程への指導と評価の研究 ・プログラミング教材を用いた指導の研究
	2 個別テーマ学習の実施	テーマの理解、解決、自己の考えの形成、解決法、表現方法を個別に指導 【指標】「自己の考えを的確に表現できるようになった」者85%以上	B	
	3 主体的・協働的な学びの評価の確立	AL型授業の実践を通し、評価方法の確立と、評価の生徒へのフィードバックを充実する 【指標】「自ら進んで他者と協力することができるようになった」者85%以上	B	

\*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への課題
総合的な探究の時間	1 進路実現(大学・専門学校・就職等)に関する自らの課題を発見し、まとめて他者に伝えることにより、それらに関する知識を深めることができるようになる。	①社会人インタビュー:地域の社会人を招き、希望別に講話を聴講。事前学習、実施、振り返り、発表を行う ②大学模擬講義:多様な分野の大学教員を招き、希望別に講義を受講。事前学習、実施、振り返り、発表の実施	B	B	・総探の学習内容の充実 ・総探の時間の授業振替方法の改善 ・テーマ別探究の深化・発展を図る工夫 ・年間計画の改善、長期・短期のテーマ設定
	2 調べたことについて考え、整理してまとめ、表現できるようになる。	地域文化研究 ①地元地域について、テーマごとに現状と課題について調べ、課題解決について探究したことをまとめて発表 ②修学旅行で訪問する地域の言語や文化などについてテーマを設定し、自分が住んでいる地域との違いについて調べたことをまとめて発表。更に現地を訪問した際に、その内容について検証	B		
	3 現代社会に柔軟に対応するための課題解決能力を高めることができる。	小論文指導を中心にして、国内外で起こっている様々なことからの記事やニュースから、問題点や感じたこと、解決策などをグループで話し合い、文章化	B		
いじめ対応問題	1 いじめの未然防止・早期発見	①一人一人が自己効力感を得られる出番を確保し、自信を育成 ②生徒・家庭への定期的な声掛け・電話により信頼関係を構築	B	B	・被害者の心のケアを最優先した組織的な対応を徹底 ・インターネット環境等(SNS等)に関する研修を実施
	2 問題発生時の初期対応の徹底	被害者の心のケアを最優先した組織的な対応を徹底	B		
	3 教員研修会の充実	インターネット環境等(SNS等)に関する研修を実施	C		
その他	1 新学習指導要領への対応～カリキュラム・マネジメント	①各教育活動のフローを体系化・見える化し、グランドデザインを構想 ②ICT教材の活用促進と主体的・対話的で深い学びの実践	B	B	ICT活用・主体的対話的な授業実践のための研修機会の創設
	2 働き方改革への対応	①業務精選とICTを活用した業務の効率化を図る ②休暇の取得促進	B		

\*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）